

## ◆ 今週のコメント

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例(女性、80歳代)あります。症状は発熱・咳嗽・呼吸困難・肺炎です。
- インフルエンザの定点当たり報告数は10.21(684例)で、第5週(2月11日～2月17日)をピークに4週連続減少しているものの、依然として注意報レベルの「10」を上回っています。
- 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、8.61(353例)で、前週 7.05(289例)より増加し、過去5年平均値を上回っています。

## ◆ 今週のトピックス:<風しん>

風しんの報告が2例あります。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 1例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 3例  
【1月以降の累積報告数 56例(肺結核 31例, その他結核 18例, 潜在性結核感染者 7例)うち喀痰塗抹陽性 19例】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類:風しん 2例【1月以降の累積報告数 3例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	10.21	684
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.61	353
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.39	57
	③ 水痘	0.93	38
	④ 突発性発しん	0.44	18
	⑤ 咽頭結膜熱	0.17	7
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

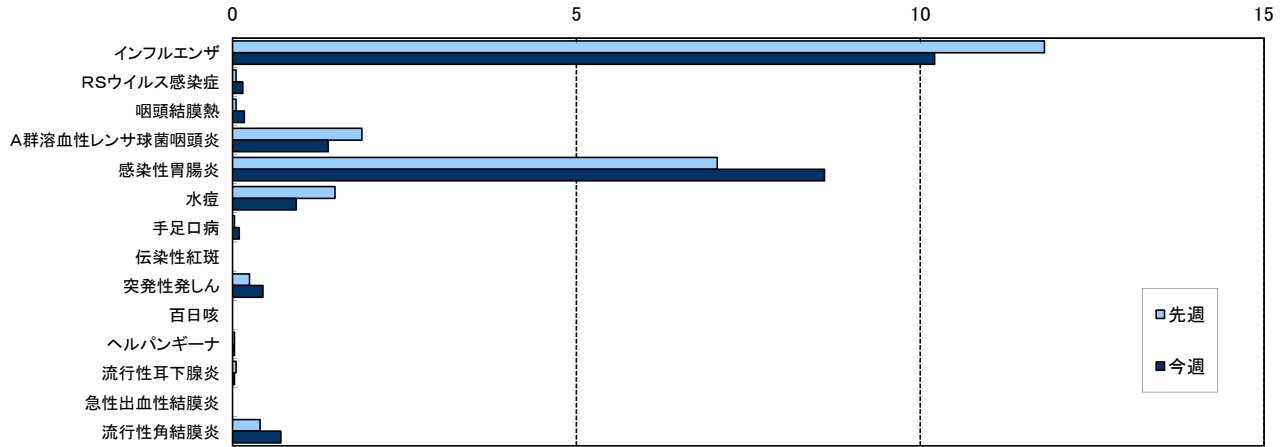
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<風しん>

(注)京都市のデータは、平成25年3月7日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

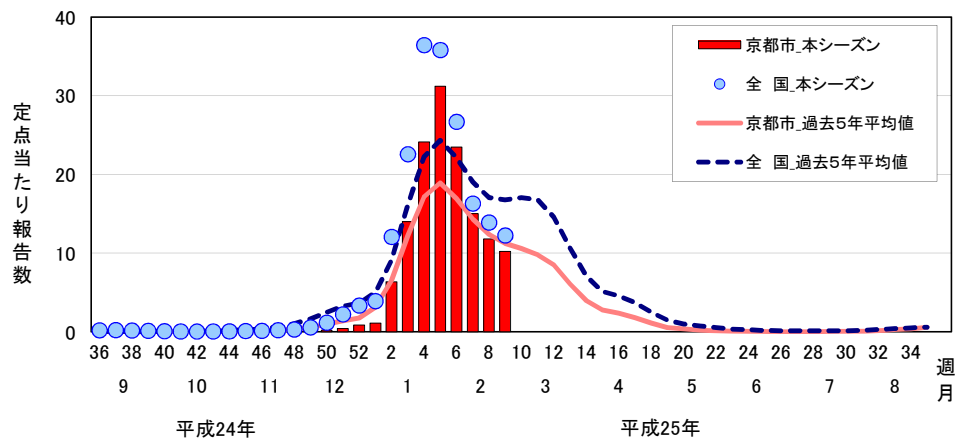
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第9週)と先週(第8週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

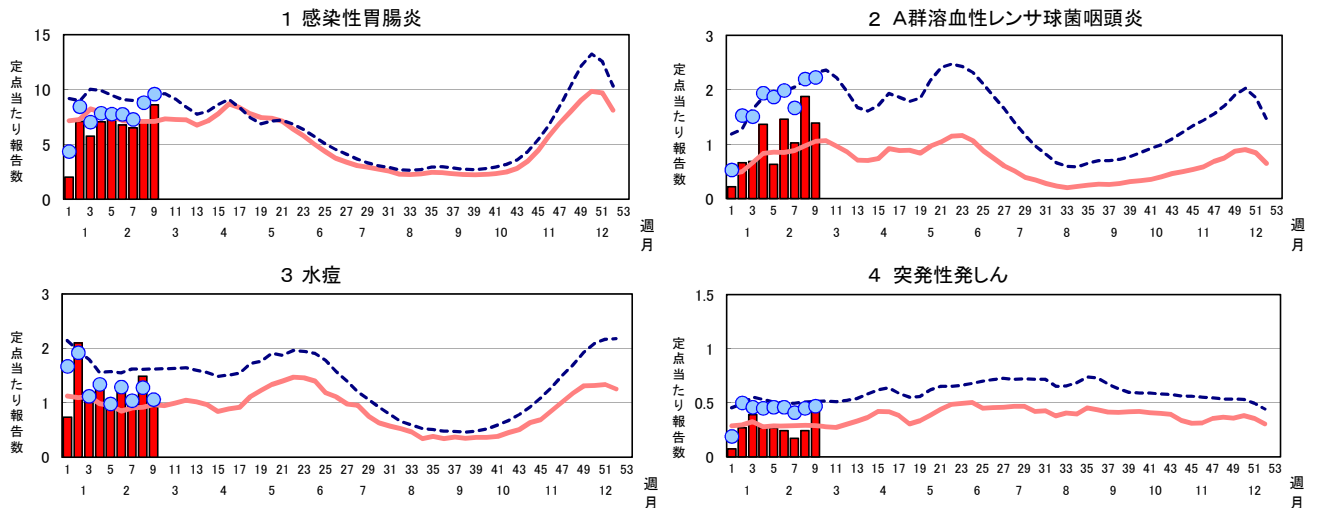
週	報告数(例)
第5週	2,092
第6週	1,572
第7週	1,007
第8週	791
第9週	684
累積報告数 (第36週以降)	9,313



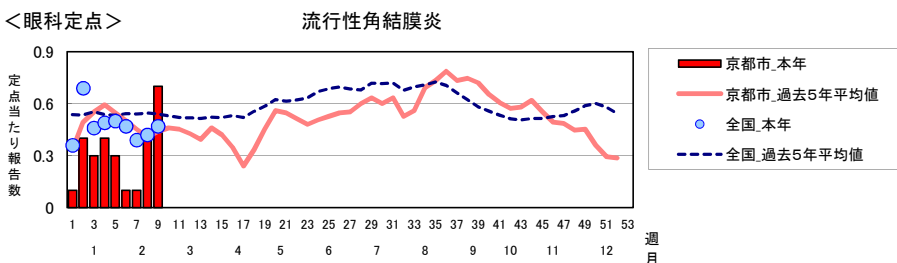
\*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第9週(2月25日～3月3日)トピックス: <風しん>

風しんの報告が2例あります。いずれも男性で、30歳代 1例、40歳代 1例です。ワクチン接種歴は、なし 1例、不明 1例です。

京都市の年間累積報告数は、風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更になった平成20年以降、平成20年(1例)、平成21年(1例)、平成22年(0例)、平成23年(0例)、平成24年(26例)で、平成24年は非常に多い年でした。本年も第9週までにすでに3例となっています。全国でも、平成24年は急増し(2391例)、本年も引き続き非常に多い状態が続いています。

都道府県別報告数は、本年は東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県順に多くなっています。

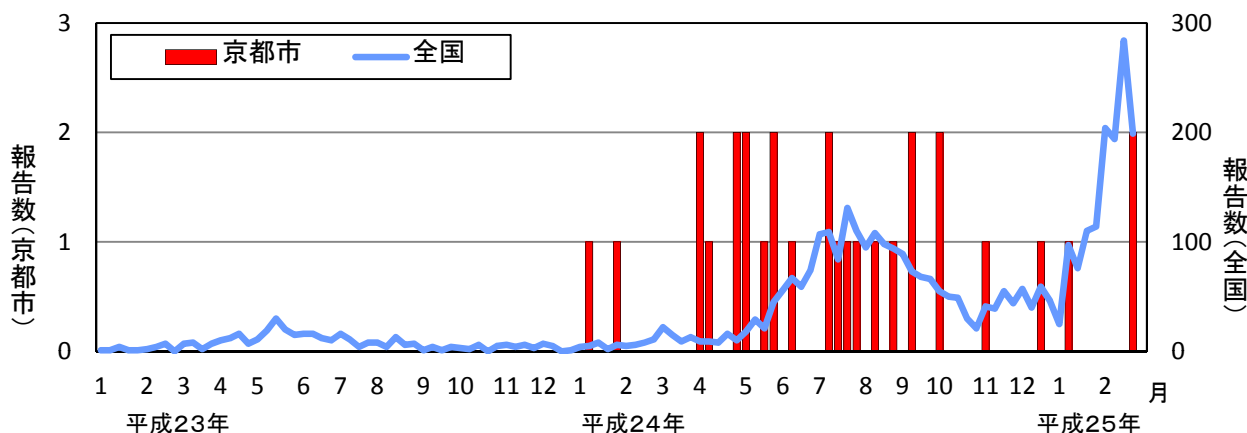
風しんの届出基準及び届出様式は、下記をご覧ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000107310.html>

京都市及び全国の年次報告数(平成25年3月8日現在)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年 ( )内は第9週まで	平成25年 第9週まで
京都市	1	1	0	0	26(0)	3
全国	303	147	87	374	2391(55)	1305

京都市及び全国の報告数の推移(平成25年3月8日現在)



都道府県別累積報告数(平成25年3月8日現在)

